

■ フレームの動きと姿勢の変化

	図 解	A メリット	B デメリット	C 対象者	D その他	搭載機種
①	一般的なリクライニング 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フルフラットが可能</li> <li>② オムツ交換が可能</li> <li>③ 体圧分散が得られる</li> <li>④ 臥位に近い休息姿勢が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① リクライニング時にバックサポートと身体のずれが生じる</li> <li>② リクライニング時に座シートが滑り角になり骨盤が前ずれを起こし仙骨座りになる</li> <li>③ リクライニングした状態から起こすときに、腹部の圧迫が起こり骨盤が前方へ押し出されるなどして座骨、仙骨への圧が増加する(仙骨盛りになる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 筋力低下のある人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① リクライニングを繰り返すと、骨盤のずれが著しく車いすから落ちそうになり非常に危険であり、基本的にはこのタイプはリスクが大きく④⑤⑥⑦⑧へ移行が望ましい</li> </ul>	
②	ティルト 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 身体全体が一体で傾くため、ずれが生じない(後傾してもフレーム支持部と身体のずれが生じない)</li> <li>② 身体全体が一体で傾くため、股関節・膝関節に拘縮がある場合などは安全である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体幹部がつぶれたり、腹部の圧迫がある状態でティルトしてもつぶれや腹部の圧迫は解消されない</li> <li>② 股関節や膝関節が一定の角度のままティルトすることになり、関節や筋などの生理的な休息は得られない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 筋力低下のある人</li> <li>② 脊柱変形のある人</li> <li>③ C.P. 筋ジスなど</li> <li>④ 股関節・膝関節に拘縮のある人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体幹のつぶれが大きい場合は、ティルトより④⑤⑥が望ましく、⑦⑧がより有効である</li> <li>② 操作が複雑でないので、使い易い</li> </ul>	T-wagon RV-ss RV-pocket II RV-run II PW PC Pit II MAD
③	①+② ティルト & 一般的なリクライニング 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体圧分散が得られる</li> <li>② ①に比べて腹部の圧迫が軽減される</li> <li>③ 一般的なリクライニングの欠点(ティルトを加えることで程度補える)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 一般的なリクライニングの欠点である身体のずれや骨盤の滑りを補うものであるが、一般的なリクライニング、ティルトの欠点を残している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 筋力低下のある人</li> <li>② 脊柱変形のある人</li> <li>③ C.P. 筋ジス等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 基本的には、デメリット部分が大きく、⇒④⑤⑥⑦⑧へ移行が望ましい</li> </ul>	
④	新方式リクライニング 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① リクライニング時にバックサポートと身体のずれが生じない(モールド型背もたれ可能)</li> <li>② ②-B-ロ.の欠点解消</li> <li>③ 座圧・仙骨圧が減少する</li> <li>④ ①の欠点がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ②-B-イ.の欠点を少し残している</li> <li>② バックサポートの角度に限度がある(バックサポートの角度が40度を越えると座シートが山状になるため)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 筋力低下のある人</li> <li>② 脊柱変形のある人</li> <li>③ C.P. 筋ジスなど</li> <li>④ 高齢者</li> <li>⑤ 頸損</li> <li>⑥ ALS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 電動アクチュエーターとのセットで自力で休息ができる(ずれ落ちの危険が少ない)⇒休息の自立</li> <li>② ①のタイプの電動リクライニングは非常に危険である</li> <li>③ 注:座席行に注意(深すぎると倒した時に膝蓋を圧迫する⇒うまく利用して仙骨部の除圧に使える)</li> </ul>	新リク車いす(PCくるピタ)(カーシート) RV-run II
⑤	②+④ ティルト & 新方式リクライニング 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新方式リクライニング・ティルトどちらを使って傾けても身体のずれが生じない(介助者が間違えにくい)</li> <li>② 前傾・前受の姿勢のまま、身体全体を一体で交換できる(下腿部を下げた姿勢)</li> <li>③ ④-B-ロ.の問題を解消している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ②-B-イ.の欠点が少し残る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 筋力低下</li> <li>② 省エネ姿勢が有効な人</li> <li>③ 脊柱変形のある人</li> <li>④ 高度側弯・後弯のある人</li> <li>⑤ C.P. 筋ジスなど</li> <li>⑥ ほぼ全て</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 前傾前受は⑦⑧でも良いが、乗せたまま変更できるので⑤の方が使い易い</li> <li>② 注:ティルトした状態から新方式リクライニングを起こすと、屈曲のきつい状態になってしまう(誤使用操作の可能性はある) 一関節の屈曲の制限がある場合特に注意</li> </ul>	TRB TRK
⑥	④+①(オフセット) 新方式リクライニング & 背リクライニング(オフセット) 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ①-⑤に比べて腹部が十分に広がる</li> <li>② 臥位に近い休息姿勢が可能</li> <li>③ 身体のずれが生じない</li> <li>④ 側臥位も可能(フラットに近い設定)</li> <li>⑤ オムツ交換が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 背リクのみを使用した場合は、①-B-ロ.の欠点が残る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 極端な筋力低下のある人</li> <li>② 腹部の圧迫がおきやすい人</li> <li>③ 高度側弯・後弯のある人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 高度側弯で肋骨と骨盤のぶつかりがあり痛まっている場合に有効</li> <li>② 十分な休息姿勢の提供</li> <li>③ 注:新方式リクライニングを起こしすぎないよう注意が必要(バギータイプの場合は)</li> <li>④ 注:基本は「新リク」で角度可変→補助的に背リクを用いる</li> </ul>	WRB WRK
⑦	マルチ角度可変I(②or④) ティルト or 新方式リクライニング + 股・膝関節角度設定 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 股関節・膝関節の角度設定が行えるため、股関節・膝関節の拘縮がある場合に良い</li> <li>② ティルトと新方式リクライニングの選択が可能</li> <li>③ 股関節屈曲位・伸展位が選択できる</li> <li>④ 身体状況の変化に対応可能</li> <li>⑤ 多種多様な椅子座位が実現できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほとんど無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全てにおいて大体良い</li> <li>② 省エネ姿勢が有効な人</li> <li>③ 過緊張のある人</li> <li>④ 股関節・膝関節の拘縮がある人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 姿勢が決定しにくいときには、あらゆる姿勢に変更できる</li> <li>② 測定(評価)いすとして使える</li> <li>③ 固定フレームが望ましい</li> <li>④ ⑤⑦は機能的に重なる部分が多いが股関節が拘縮している場合は⑦⑧が良い</li> <li>⑤ リクライニング時に①②のリスクがほとんどなく安全な休息が得られる</li> </ul>	MAD
⑧	マルチ角度可変II(②+①(オフセット)) ティルト & 背リクライニング(オフセット) + 股・膝関節角度設定 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 股関節・膝関節の角度設定が行えるため、股関節・膝関節の拘縮がある場合に良い</li> <li>② 股関節屈曲位・伸展位が選択できる</li> <li>③ 身体状況の変化に対応可能</li> <li>④ 多種多様な椅子座位が実現できる</li> <li>⑤ 腹部の圧迫が軽減できる</li> <li>⑥ オムツ交換が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほとんど無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全てにおいて大体良い</li> <li>② 省エネ姿勢が有効な人</li> <li>③ 過緊張のある人</li> <li>④ 股関節・膝関節の拘縮がある人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ⑦の機能にずれの少ないオフセット背リクライニング機能をプラスしたものの</li> <li>② 基本ティルトであり、伸展緊張や伸展位拘縮のある人には、④⑤⑥のより有効かつ安全である</li> </ul>	REST wagon MAB MAK

リクライニング時に身体がずれない、骨盤が滑らないタイプ  
② ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

リクライニングした状態から起こすときに腹部の圧迫、骨盤の押し出しが起らないタイプ  
④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

腹部を広げる(圧迫を軽減)タイプ  
大 ① ⑥ ⑧  
中 ④ ⑤  
小 ②

股関節の可動域制限がある場合には  
② ⑦ ⑧  
(③④⑤⑥は背一度のひらき角を動かすときに注意が必要)

モールドバックサポートが可能なタイプ  
② ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

簡易側臥位も可能なタイプ  
① ⑥ ⑧

省エネ姿勢を提供できる  
⑤ ⑦ ⑧

前傾前受けに向いている  
⑤ ⑦ ⑧